

◆自己評価(教職員)について…学校医、非常勤職員等以外の教職員 114 名の内 108 名提出

今年度から新たに学校教育目標を設定し、目指す「子どもの姿」として、「しなやかに育つ拓北の子」を育成するために、地域・保護者等と連携し、「豊かな生活」を育むことができる力を養うことを最終的な目標として、教育活動を推進している。学校教育目標の設定と併せて、目指す「学校の姿」「教職員の姿」も新たに定め、3つのひらく(「拓く」「開く」「啓く」)を目指す「学校の姿」のキーワードとし、学校力の向上の追求、児童生徒や保護者にとって、魅力ある学校作りの推進に努めている。また、「教職員の姿」として、本校の職員として誇りを持ち、「人格・人権の尊重」「連携・協同」「専門性の向上」をキーワードに、教職員にとって働きがいのある職場づくりを推進し、学び支え合う組織の構築に努めてきた。地域・関係機関等とも連携しながら、3つのひらくにあるように、より社会に開かれた拓北養護学校を目指している。学校評価の結果から、それぞれの取り組みを振り返り、課題となる事項については次年度の教育活動に向けた手がかりとして、全校で確認していきたい。

- 4 : 十分できている (十分取り組んでいる、十分な成果が得られた)
- 3 : 十分とは言えないが、できている (取り組んでいる、成果を得られた)
- 2 : あまりできていない (あまり取り組めていない、あまり成果を得られなかった)
- 1 : できていない・改善が必要 (していない、成果を得られなかった)

【各評価項目について】

Ⅰ「未来を拓く」◇一人一人を大切にする学校づくり

(1)人権意識(対児童生徒、対教職員)の向上を図り、信頼される学校経営が推進できた。

*各平均…小3.1 中3.0 高3.1 舎3.2 行3.2

・8割以上ができていますと回答している。今後も児童生徒が安心して学ぶことができるよう、教職員一人一人が日々の言動を振り返り、生活年齢を踏まえた関わり方についてなど、児童生徒の人権尊重の意識を一層醸成して行く。また、ハラスメントのない働きやすい職場環境、協働を目指し、同僚性を高める取組を意識していく。



(2)児童生徒一人一人の教育ニーズに応じた「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」を基本とした根拠ある教育実践ができた。

*各平均…小3.2 中3.2 高3.3 舎3.1 行3.2

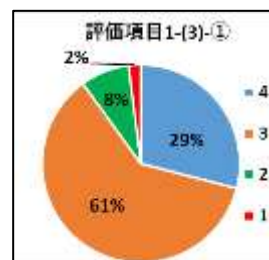
・8割以上ができていますと回答、中学部以外は昨年度よりも肯定的な評価となっている。引き続き指導に対する目標の設定や根拠ある評価、改善の充実を一層図り、保護者への丁寧な説明を行っていく。



(3)-①医療的ケア実施体制の充実ができた。

*各平均…小3.1 中2.8 高3.1 舎3.2 行3.4

・今年度も校内及び保護者の協力を得ながら実施を進めることができた。全体集計では、8割以上ができたと回答している。しかし、できていないとの回答と記述での改善を求める意見も見られている。また、昨年12月に本校の医療的ケア実施についても一部改訂されている。全校で確認し、児童生徒の安心安全な学習環境に努める。



-②摂食指導に係る専門性を高めることができた。

*各平均…小3.0 中2.8 高3.0 舎3.0 行3.2

・全体的に平均的な回答となっているが、まだまだ十分ではなく今後も研鑽が必要であると前向きな記述も見られた。全校での研修、学年毎に児童生徒を抽出した実践的な研修を継続して取り組んできている。個々の専門性の向上に留まらず、共通認識を持つための知識の共有、校内だけではなく、保護者や関係機関との現状の共有と課題解決に向けた取組が必要だと感じている。



③児童生徒の実態に応じた段階食の検討・推進ができた。

※各平均・・・小2.7 中2.7 高2.3 舎3.0 行3.1

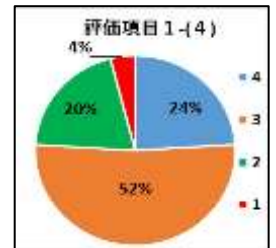
・今年度も全校の評価は下がっており、教職員からの記述も改善を求める意見が一番多くあげられている。本校の環境的な課題(厨房)は早急に改善とはならないが、食形態など提供の仕方について(食材の柔らかさなど)など、解決可能であろう課題については、具体的な解決策を提案し、実施可能なことから取組を進めていくようにする。



(4)安全で安心な教育環境、危機管理体制の点検と整備ができた。

※各平均・・・小3.0 中2.7 高2.8 舎3.1 行2.8

・全体の集計では平均的な回答となっているが、昨年度と比較すると評価が低下している。また、記述では、インシデント・アクシデント報告についてや、今年度数回あった給食時の異物混入時の対応について見直し確認を求める意見が挙げられている。その他にも、修繕すべき箇所が増えてきていることについて、すぐには難しいことは承知しているが、見通しを持った予算立てをすることへの希望の声が挙げられている。



(5)①将来をよりよく生きるために必要な知識、意欲や態度を育成できた。

※各平均・・・小2.9 中2.6 高3.0 舎3.2 行3.2

・8割以上が肯定的な評価となっている。しかし、児童生徒の将来を見据えた指導感については、指導者間で大きな温度差を感じていること、小中高それぞれの生活年齢に応じた指導の必要性、児童生徒の将来を見据えた指導についての理解を我々教職員が今一度確認していくことが肝要ではないかとの意見が挙げられている。



②発達段階、年齢に即した進路支援や進路学習の実施ができた。

※各平均・・・小3.0 中2.5 高3.0 舎3.1 行3.2

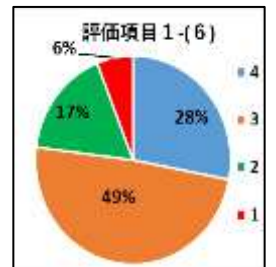
・全体的にできたと回答しているが、中学部は昨年度からポイント低下で「十分ではない」「あまりできていない」との回答が多くなっている。児童生徒一人一人の将来を見据えたキャリア教育の推進については、今一度、各学部段階での自立観や目指す子ども像についての確認をしていきたい。また、記述では進路指導のあり方についても挙げられている。進路指導については、キャリア支援部から出されている進路指導計画を見直すこと、担任が児童生徒一人一人のトータルコーディネーターとして個々の課題や目標達成に向けた取り組みについて、積極的に全体に発信していくことで、校内の連携へとつながっていくと考える。



(6)諸会議や業務内容の確認と精選ができた。

※各平均・・・小2.7 中2.8 高2.9 舎3.4 行3.2

・今年度も「十分ではない」「あまりできていない」との回答が多く、低評価がとなっている。業務の精選を求める声がある一方で、取組について丁寧に確認しながら進めて欲しいとの声も挙げられている。また、一部職員への業務負担の偏りによる超過勤務も改善されていないのも現状である。本校における働き方改革の意義を今一度確認し、各運営組織において業務の効率化と、適正な業務の平準化など具体的な業務の改善を図っていく。



2「学校を開く」◇家庭、地域、関係機関から信頼される学校づくり

(1)PTAや地域と連携した学校づくりができた。

※各平均・・・小3.0 中2.7 高3.0 舎3.0 行3.2

・ほぼ8割ができていないと回答している。一部制限はあったものの、役員の方々を中心にアイデアを出し合い、ご提案頂きながら活動の実現に向けて共に進んできている。今年度は新たに夏季休業中に花火大会を実施するなど、あらたな取組も始めることができています。今後も新しいPTA活動のカタチを模索していきながら、実現に向けた活動の見える化に努める。



(2)①地域の特色を活かした体験学習や地域資源(社会教育施設など)を利用した教育活動ができた。

※各平均・・・小2.8 中2.7 高2.8 舎3.0 行3.0

・肯定的な回答が多かったが、十分ではないとの回答も目立っている。アフターコロナの取組として、一部制限がありながらも校外学習や調理実習など体験的な学習が再開されてきた。バスを利用した校外学習の再開について求める声も挙げられている。バス代高騰もあり検討が必要な事項もあるが、各取組のねらい等を整理していきながら、実践に向けて検討・確認していく必要がある。



②家庭・地域と連携した防災体制強化に向けて危機管理体制の点検と整備ができた。

*各平均・・・小2.9 中2.7 高2.8 舎3.3 行3.0

・今年度新しくおこした項目である。今年度より防災教育の充実を目指し、通常の避難訓練に加えて「一日防災教室」を実施した。保護者評価からも、この項目については、「十分ではない」「分からない」とのご意見が多くなっている。家庭・地域と連携した防災体制とそこに向けた危機管理体制については、全校的に不透明であることが明確となった結果と言える。次年度に向けては、学校課題の大きな一つとして掲げ、家庭・地域と学校と連携し、防災教育についての取り組みを強化していく必要がある。



(3)-①卒業後の生涯学習や共生を見据えた交流及び共同学習ができた。

*各平均・・・小2.9 中2.5 高2.7 舎2.9 行3.3

・肯定的な評価ではあったが、十分ではないと感じている声が多いことも見逃せない。小中学部では、居住地交流学习が昨年度に比べて活発になり、今年度も状況に応じて相手校と連携してオンラインと対面など実施の方法も工夫しながら進められている。また、高等部では、4年ぶりに英藍高校の生徒が来校し、学校間交流を復活することができた。今後も実施の仕方を工夫しながら学びと交流の継続に努める。



②関係機関と連携した実習等の充実ができた。

*各平均・・・小3.0 中2.5 高3.2 舎3.0 行3.2

・全体的に肯定的な回答となっているが、小中学部では「十分ではない」「できていない」の二つの評価が目立つ結果となっている。評価項目内容が、実習等の充実となっていることから、高等部が対象となるような読み取りとなることも要因として考えられる。実習等も含め、関係機関との連携についてを着眼点として評価できるよう、設定項目の見直しが必要と感じている。



(4)校内相互理解を深め、関係機関と連携した特別支援教育のセンター的機能が発揮できた。

*各平均・・・小3.0 中2.7 高2.8 舎2.9 行3.0

・全体的に昨年度からそれほど変わらない評価となっている。今年度より、定期的に全校のCOが集まり、児童生徒の情報共有を行い、支援の状況や関係機関との連携等について検討する場を設けてきた。特別支援教育のセンター的機能の発揮については、明確ではないと感じている声も聞かれている。校内外における情報や本校の取組や果たす役割について、必要に応じて全校での共有に努める。



(5)学校便りや学年通信、HPやSNS等を活用した情報発信ができた。

*各平均・・・小3.5 中3.6 高3.4 舎3.7 行3.6

・今年度も全体の集計が8割以上の高評価となっている。HPやSNS等を活用して積極的な発信に努めてきた。Google クラウドの活用促進も進めてきているが、このことについては、合わせて校内での取り扱いについての確認が必要との声も挙げられている。学校と保護者間の情報共有、校務の情報化のさらなる向上に向けた検討に努め、校内と保護者間でのルールを確認しながら、一歩ずつでも進めていくことを目指したい。

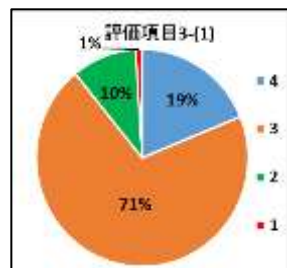


3「自己を啓く」◇安心・安全で質の高に学びある学校づくり

(1)肢体不自由教育や重度重複教育などの専門性を高めることができた。

*各平均・・・小3.0 中2.9 高3.0 舎3.0 行3.3

・平均して肯定的な回答がとれた。しかし、プール学習などアフターコロナで再開となった教育活動もあり、基本的な児童生徒の介助法などの研修については、新転入者だけではなく、全体で確認が必要との意見も挙げられている。研究部を中心に校内で必要とされている研修を計画的に実施し、専門性の向上に努める。



(2)「個別最適な学び」と「協同的な学び」の視点による各指導計画の立案や授業実践、評価・改善ができた。

*各平均・・・小2.9 中2.7 高2.9 舎3.2 行3.3

・今年度新しく起こした項目である。概ねできたとの回答ではあるが、教職員全体で本校の教育課程についての理解、各指導計画立案や授業実践に向けた取組、評価等についての研修がやはり必要である。今年度も個別の教育課程検討会が実施され、取組の様子は各学部、学年により様々ではあったが、個々の学びについて学年、関係者で一緒に話し合い確認し合うことが何より大切であることを今一度全体で確認していく必要がある。



(3)自立活動の指導の工夫と充実ができた。

＊各平均・・・小3.1 中3.1 高3.1 舎3.0 行3.4

・8割以上が肯定的な評価となっている。教育活動全体を通して、自立活動教諭と連携しながら指導にあたり、今年度も児童生徒の障がいに関すること、摂食指導に関することなどの専門性向上を目指し、校内研修を進めてきている。今後も担任からの児童生徒の課題と目標の設定や取組についての積極的な発信を受け、自立活動教諭とのさらなる連携が本校の児童生徒一人一人の学びの質の向上につながると考える。



(4)ICT 機器を有効的に活用した指導実践ができた。

＊各平均・・・小2.6 中3.1 高3.0 舎3.3 行3.1

・全体的にできていると回答され、昨年度よりも評価が上がっている。技術面だけでなく、今年度からは ICT を活用した授業実践交流を行い、全校教職員で共有することができた。ICT に関しては、今後も個々のスキルアップの向上を目指していくとともに、個別最適な学び、主体的・対話的で深い学びへと繋げていけるような取組に努める。



(5)教育公務員としての役割と使命を自覚し、不祥事の防止、服務規律の保持ができた。

＊各平均・・・小3.5 中3.5 高3.5 舎3.8 行3.7

・今年度から拓北養護学校 教職員行動指針を掲げ、月間スローガンの呼びかけ確認を行い、目指すべき「児童生徒の姿」「学校の姿」を具現化するため、取り組みを進めてきた。全体的に高評価ではあるが、自信をもって「できている」とならないのはなぜなのか・・・との読み取りもできる。次年度に向けても、学校教育目標達成に向けて、働きがいのある職場を目指し、一人一人が自覚と高い意識をもち、取組を継続していく。



◆保護者評価について(117 家庭に配布し、82 家庭から回収)

全体の回答率は約7割程度となり、昨年度と比較すると解答率は上がっている。また、中学部・高等部の保護者の解答率が昨年度よりも高くなっている。評価の昨年度比では、二項目のみ上昇となり、他四項目は維持する評価となり、六項目で評価が下がる結果となった。

学習の目標設定について、個々の状況に応じた教材・教具の工夫については肯定的な評価ではあったものの、学習内容が将来の自立につながるものかとの問いについては、0.3と評価が下がる結果となっている。「なぜ」学んでいるのかについての説明が十分にできていなかった結果と読み取れる。一人一人の課題を共有し、将来を見据えた学習内容について、丁寧な説明が求められている。

安心できる学校づくりのための取り組み、特に防災・防犯と危機管理については、「分からない」と回答している保護者が他の項目に比べて多く、家庭・地域と連携した防災体制強化に向けた取組について、明確に示す必要性を感じている。

否定的な評価、及び記述については、部主事や担任、関わる教職員で確認をし、必要に応じて内容や書かれた内容、個々のニーズを保護者と再確認している。今後も、本校の児童生徒の成長を支えるチームとして、保護者や関わる方々と担任をはじめ学校はいつでも相談しやすい環境づくりに努める。

PTA 活動については、昨年度から継続して花壇に花の苗を児童生徒と一緒に行うことができた。夏にはコロナ後初めてのイベント復活として、花火大会を開催することができた。次年度からは、さらに新しい PTA 活動への転換に向けて進めていくこととなっている。引き続き、共に協力し合いながら子供たちの学びを支える活動の提案に努める。

【保護者評価結果】

No.	保護評価項目	R4	R5	前年比
1	個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成・実施・評価にかかわり、担任あるいは学校から十分な説明を得ることができていますか。	3.9	3.8	0.1 ↓
2	学校は、学校便り(広報誌)、学年便り、校内掲示、ホームページや SNS、メール配信などで学校からの情報を十分に伝えることができていますか。	3.7	3.8	0.1 ↑
3	教職員は、お子さんに対し、人格に配慮した丁寧な対応や言語環境で接していますか。	3.8	3.8	- →
4	教職員と保護者は、お互いを尊重し合い、協力し合うことができていますか。	3.7	3.8	0.1 ↑
5	各計画は、お子さんの学習ニーズに応じた目標設定になっていると思いますか。	3.7	3.7	- →
6	学習では、お子さんの状況に応じた教材・教具、補助具、支援等の工夫がされていますか。	3.7	3.7	- →
7	学習内容は、現在の生活や将来の自立につながる内容になっていると思いますか。	3.6	3.3	0.3 ↓
8	学校生活は、お子さんの状況を踏まえた健康安全指導（給食・摂食、医療的ケア含む）がされていますか。	3.8	3.7	0.1 ↓
9	学校は、防災・防犯について、危機管理意識をもち、災害発生時に対する備えを進めていますか。	3.7	3.4	0.3 ↓
10	学校は、事故やヒヤリハット、いじめ等の安全面の対応と再発防止への取り組みがなされていますか。	3.6	3.4	0.2 ↓
11	学校では、学校行事や寄宿舎行事の時期や内容は、適切に行われていると思いますか。	3.6	3.5	0.1 ↓
12	進路指導では、早期から保護者や関係機関と連携し、計画的な指導・支援がなされていますか。	3.4	3.4	- →
13	本校の PTA 活動は参加しやすい内容・方法になっていますか。	3.5	3.4	0.1 ↓